

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：12601

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23650121

研究課題名(和文) 図書館を学習課程の中心に置く：探究型学習の方法に関する教育実験と評価

研究課題名(英文) Locating libraries at the center of learning curriculum: educational experiment and evaluation of inquiry learning

研究代表者

根本 彰(NEMOTO, AKIRA)

東京大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：90172759

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：探究型学習は学習指導要領上はきわめて重要な位置づけになっているが、現実的にそれを実施する方法はきわめて多様である。本研究では、東京大学教育学部附属中等教育学校で行われている卒業研究に焦点をあてて、探究型学習の進め方について、研究のテーマ設定、研究の方法の選別と実施、研究の執筆と口頭発表の3つのプロセスを解明することを行い、そのなかでとくに、テーマ選定と図書館を利用した研究支援を中心とした。3年間の研究期間中の毎年度終わりに、執筆者への質問紙調査を行い、これらの支援がなかったときと支援が行われたときとを比較して、執筆者に一定の効果があったことを明らかにしている。

研究成果の概要(英文)：Although inquiry-based learning is located importantly in the curriculum guidelines of the MEXT, there are a lot of ways to put them in effect. We focused the graduation study of the Secondary Education School attached to the School of Education, University of Tokyo, we figured out the theme setting, selection and practice of methodology of research, and paper writing and oral presentation. Especially we centered on theme selection and research support by use of school libraries. By making questionnaire studies of the students in the end of each year for three school years, we made clear that the library support affected positively the students by comparing both situations with support and without support.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：情報学 図書館情報学・人文社会情報学

キーワード：探究型学習 情報リテラシー 総合的な学習の時間 卒業研究 学校図書館

1. 研究開始当初の背景

現行学習指導要領においては、通常の習得型学習に加えて、探究型の学習を実施することになっている。そのために、総合的な学習の時間が用意されているほか、各教科においてもそうした要素を取り入れることが規定されている。しかしながら、大学入試センター試験や各大学の入学試験などでは基本的に習得型学習のみを評価することになっており、探究型学習を積極的に行う受験校は、一部の私立大学附属学校や研究指定校などに限られていた。

また、これをどのように実施するのかについても、あまり研究が行われていなかった。これは、探究型学習が実際にどのようなものであるのかについて、学校関係者や研究者に十分な合意がつけられていないこともあると考えられる。

他方、すべての学校には学校図書館が設置されることが法的に義務づけられている。しかしながら、これは占領期にアメリカ教育の影響でつくられたもので、読書教育以外の側面では日本の習得型学習中心の学校ではあまり重視されていなかった。そのサービス体制をどのようにするのか、とくに職員体制について、司書教諭と学校司書をどのように配置し、それぞれが何をするのかについては、今に至るまで議論が続いている。

本研究は、この二つの問題群をつないで、探究型学習の実施に関わるカリキュラムと教育方法、そしてそれをサポートする学校図書館の在り方について、特定の事例をもとに問題点を明らかにしようというものである。

2. 研究の目的

事例として、東京大学教育学部附属中等教育学校で長年、実施されている卒業研究の教育課程とそこへの学校図書館の関わりを明らかにすることを通じて、こうした実践の実施状況を明らかにし、行う際の問題点を明らかにすることが基本的な目的である。

この学校は、教育学部の附属学校として最初から実験的な目的で設置された。また、探究型学習が一般的ではなかった1980年代に、卒業研究をすべての生徒に課すことすでに30年以上の探究型学習のノウハウの蓄積がある。

そうした学校において実施されている卒業研究であるが、従来は付設の学校図書館を使うことは教員にも生徒にも意識されていなかった。そのため、本研究では、司書教諭、学校司書

の協力を得て、学校図書館の整備を行うことで学校図書館が卒業研究の重要な拠点になることを一方でめざした。

他方で、卒業研究の過程はテーマ選定、研究の準備、研究そのもの、論文の執筆、発表といった部分に分けられるが、このなかでは本研究は全体に関わるが、とくにテーマ選定と研究の準備のような前半の部分に焦点をあてて、全体を見ることにした。

3. 研究の方法

上記の学校の教員および学校司書、生徒に協力を得て、次のような方法をとった。なお、卒業研究は6年課程の4年次の最後の学期から始まって、1年半ほどかけて6年次最初の学期に完成する。

1) 研究中の3年間の毎年度、学校図書館の司書教諭および司書に協力をしてもらって、各生徒の卒業研究のテーマに合わせた資料を購入する。これは、テーマに合った資料を事前に用意することによって、学校図書館を研究の拠点とするためである。

2) 研究2年目の4年次の生徒の卒業研究テーマ選定を支援するために、大学院生によるアドバイザーを図書室に配置し、それを評価する。研究テーマの選定はもっとも重要な過程であるが、これまでは複数の教員と面談することが決まっていただけだった。ここに、第三者的なアドバイスがどのような効果をもつのかを解明する。

3) 3年間のあいだ、毎年、卒業研究が終わった6年次の生徒に対して、同様の質問紙調査を実施する。質問内容は、テーマ選定の方法、情報源の選別、執筆過程についての自己評価などからなる。これによって、別々の指導過程やサービス過程を経験した生徒がどのように異なるのかを明らかにする。

4) これ以外に、卒業研究の発表会や指導会を観察・記録したり、実施の教員から聞き取りを行ったりする。これについてはインフォーマルに追加情報として蓄積した。

5) 以上をまとめて、この学校の卒業研究の状況をまとめ、他校のものと比較・評価するために、公開研究会を開催して知見を交換した。2013年11月初旬に、こうした卒業研究や探究型学習を行っている中等教育の学校に声

をかけて、公開での意見交換会を開催した。この場で、本校の担当者からの現状報告と卒業生による卒業研究についての発表のあとに、分科会で意見交換を行い、それを最後にもちよって総合的な意見交換を行った。

4. 研究成果

卒業研究のような探究型学習は効果が長期的に出現すると考えられているために評価が難しいとされている。しかしながら、この学校のように時間をかけて取り組めば、一定の評価は可能であり、そのことは生徒への質問紙調査や教員への聞き取り調査から明らかにされている。

探究型学習の実施方法については、教科ごとに行われる学習は人文、社会科学、自然科学のそれぞれの研究方法と対応して、きわめて多様なとらえ方がある。卒業研究もその意味では研究テーマに対応した方法との関係できわめて多様であり、それに対応して実験、観察、インタビュー、質問紙調査、文献読解、制作、デザイン等々などが選択される。これらを一つのものとして扱うことの難しさも明らかにされた。

さらに、学校図書館と卒業研究との関係は、第一に研究テーマ選択のための予備調査を行うための文献提供サービスであり、第二にテーマが設定されたあとに先行研究を確認するために必要となる文献調査であり、第三に研究方法として文献を使用するのに対応して専門的な文献を提供することである。これらは相互に関わりがあるが、どのレベルまでこれを行うかについては、結局のところ中等教育の卒業研究そのものの目的や方法に依存することになる。

このように、本研究では、卒業研究の位置づけや指導方法が変化し、それは最終的に卒業研究の質に影響することを明らかにした。探究型学習が教育課程において明確になり、そのなかで卒業研究の位置づけもはっきりすれば、それに応じて図書館サービスのどの側面を強化するかを明示できることになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

根本彰「フランスの学校教育における資料情報支援体制」『学習情報研究』230号、2013年1月号、p.52-55.

崔英姫・根本彰「高校生の卒業研究に関する事例分析 -中高一貫校の執筆者の質問紙調査から-」『生涯学習基盤経営研究』第38号 2013年度 p.29-39.

井上享子「卒業研究テーマ決定へのアプローチ:「卒研への道」の活用」『東大附属論集』57号、2014、p.75-84.

[学会発表](計3件)

根本彰「探究学習とカリキュラム・イノベーション」『2011年度東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター年報』2012、p.13-20.

根本彰「21世紀のカリキュラム展開と学校図書館職員養成」『日本の学校図書館専門職員はどうあるべきか:論点整理と展望(LIPER3シンポジウム記録 2012年12月1日)』2013.09 p.19-30.

根本彰ほか「公開研究会:中等教育における卒業研究カリキュラム -学校図書館サービスを視野に入れて-」東京大学教育学部附属中等教育学校 2013年11月3日.

[図書](計1件)

根本彰ほか『公開研究会記録 中等教育における卒業研究カリキュラム -学校図書館サービスを視野に入れて-』東京大学大学院教育学研究科生涯学習基盤経営コース 図書館情報学研究室 2014年3月 111p.

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

[その他]

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

根本彰(東京大学大学院教育学研究
科教授) 研究者番号 : 90172759

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号 :

(3) 連携研究者

白石さや(岡崎女子大学教授) 研
究者番号 : 70288679

高橋亜希子(北海道教育大学旭川校
准教授) 研究者番号 : 90431387